

富士のさと ボランティア養成研修



令和6年6月8日(土)～6月9日(日) 1泊2日

○目的

青少年の体験活動を支援するボランティアに求められる知識・技能を習得するとともに、ボランティア活動の意欲を高める。

○参加者(対象及び内訳)

対象：ボランティア活動に興味のある高校生以上の生徒・学生・社会人

参加者：計40名(内訳：男性22名、女性18名)

(高校生：10名、大学生：26名、社会人：4名)



○事業の内容

(1)「交流の家について知ろう！」

(科目：青少年教育施設の現状と課題)

次長 安達 拓人

ボランティア活動を行う場である青少年教育施設について各種法令や実際の運営状況をもとに学び、当所の指導者の一員としての心構えを知る機会となった。



(2)「ボランティアってなんだろう？」

(科目：ボランティア活動の意義)

ボランティアコーディネーター 西田 開智

なぜボランティアは必要なのかということや、子供とかかわる社会教育施設でのボランティア活動で必要な心がけについて、ディスカッションを交えながら学んだ。



(3)「野外炊事をやってみよう！」

(科目：ボランティア活動の技術)

ボランティアコーディネーター 高垣 信宏

「なぜ野外炊事をやるのか」という問いからはじまり、指導者としてプログラム(野外炊事)にどのような意識でかわっていきべきかを学んだ。



(4)「中央ボラについて知ろう！」

(科目：青少年教育施設におけるボランティア活動)

ボランティアコーディネーター 西田 開智

当所法人ボランティア6名

当所の教育事業の構成や各事業の特性について学んだ後、先輩ボランティアの体験談を聞き、青少年教育施設でボランティア活動を行うことの魅力などを知る機会となった。



(5)「子供たちの安全を守る知識を身につけよう！」

(科目：安全管理)

大東文化大学 スポーツ・健康学部

教授 中村 正雄 氏

研修初日に行った野外炊事の体験をもとに子供たちとの活動中に起こり得るリスクについて学んだのち、安全に活動を行うための考え方を参加者同士で共有し合った。



(6)「青少年の“今”を知ろう！」

(科目：青少年教育)

主幹(兼)事業推進係長(兼)企画指導専門職 高瀬 宏樹

青少年を取り巻く社会や課題について学んだ。大人の考えで子供を導くのではなく、どのように子供の自主性をサポートするのかについて、参加者同士でディスカッションを行った。



(7)「法人ボランティア制度について知ろう！」

(科目：青少年教育施設におけるボランティア活動)

ボランティアコーディネーター 西田 開智

法人ボランティア制度や法人ボランティアポータルサイトの説明をし、登録作業を行った。また、法人ボランティアとして活動する際の注意事項や事務手続きについて確認をした。



(8)「ボランティア活動へ踏み出そう！」

ボランティアコーディネーター 西田 開智

「自分の目指すボランティア（指導者）像」について考え、今後のボランティア活動への意欲を高めた。また、どのように理想に近づいていくかについても考える機会となった。



《参加者の感想》

- ・ボランティアの意義や目的、活動の目的、心構えなど、新たに気づくこと、学ぶことが多かった。キャンパーズファーストを胸に、子供と一緒に学べるボランティアとして活動したいと思った。
- ・講義と聞いて非常に不安だったが、複数人での話し合いや意見を出し合うような場面が主だったため自分の意見を言いやすく、そこで有意義な話し合いを行えたことが楽しかった。
- ・ボランティアの具体的な内容の話やアドバイス等が聞けたことや、実際にボランティア活動をしている先輩ボランティアの話聞くことができて良かった。

《成果と課題》

- 広報について、統一して見やすいデザインの投稿や、先輩ボランティア目線からのボランティア像を投稿してもらおう等、SNSの活用を前年度よりも強化したことで、最近では一番多くの方に参加いただくことができた。
- ボランティア活動を継続的に行うために、「ボランティア活動へ踏み出そう！」のコマを初めて実施した。参加者は2日間の講義を経て、どうなっていきたいかを具体的に考えることができ、今後のボランティア活動への期待感が高まったようだった。
- 屋外で実施するプログラムが野外炊事のみになってしまったことで、実際のボランティア活動についてイメージがつかみ切れていないように感じる。また、研修全体においてかなりタイトな時間配分であったため、実施日数やプログラム構成を再検討する必要がある。